

2018 年度「国際交流支援室」事業報告

加藤 道代

先端教育研究実践センター副センター長

国際交流支援室 室長

1. 国際交流支援室について

これまで教育学研究科は、旧教育ネットワークセンター（現先端教育研究実践センター）国際交流部門において国際交流事業を行ってきた。国際交流のさらなる重点化にあたり、2018年10月、先端教育研究実践センター内にあらたに国際交流支援室を立ち上げ、国際交流に関する業務を集約することとなった。スタッフは、先端教育研究実践センター長（八鍬友広教授）、国際交流支援室長（加藤道代教授）、副室長（青木栄一准教授）、室員（南紅玉助教、尹得霞助教）である。

2. 今年度の活動（2019年2月現在）

(1) 会議

- ① 国際交流支援室会議（2018年12/25、2019年1/16、2/20）
- ② 文系四研究科共通国際交流オアシス事業実施委員会（4回/年;南紅玉助教出席）
- ③ 全学国際交流委員会（6回/年;加藤教授出席）

(2) 部局間学術交流協定および大学間学術交流協定の維持管理

本年度は、6件の部局間学術交流協定（杭州師範大学教育科学学院、北京師範大学教育学部、南京師範大学心理学院、華東師範大学教育科学学院、華東師範大学心理認知科学学院、ソウル大学校師範大学）の更新および世話部局を務める1件の大学間学術交流協定（ストックホルム大学）の更新を行った。また、国際交流実績に基づき学術交流協定の運用について見直し作業を行った。

(3) 学術交流協定に基づく交換留学生の派遣と受入れ

- ① 南京師範大学教育学部 1名（受入れ教員：青木准教授、期間：2018年4月～2019年3月）
- ② 国立台湾師範大学教育学院 1名（受入れ教員：有本教授、期間：2018年10月～2019年9月）
- ③ 南京師範大学教育学院 1名（受入れ教員：福田教授、期間：2019年4月～2020年3月）

(4) 外国人留学生の受入れと支援

- ① これまで、海外からの留学希望者からの問い合わせは、直接教員のもとに届いていた。近年、この種の問い合わせが増加し、個々の教員レベルでの対応に困難が生じていた。この点について、旧教育情報学研究部・教育部では、受入れ依頼のための書類の点検、日本語能力の把握等、情報の整理の作業を、尹得霞助教が担当ならびに支援していたため、この作業を現教育学研究科にも拡大し、国際交流支援室の事業として実施することとなった。当面は尹得霞助教が継続的に担当するが、今後は利用状況を確認しながら体制を整備する予定である。
- ② 外国人留学生の学習研究生活への適応のために、2014年より外部ボランティアによる日本語学習支援（週1回金曜日）を実施してきた。その際の運営調整を担当する他、留学生に対する研究相談、生活支援等に関しては、これまで南紅玉助教が担当してきたが、国際交流支援室開室後においても重要な留学生支援事業として継続する。

(5) 国際シンポジウム、講演会

- ① 教育学研究科特別講演会：2018年10月19日「大学におけるエンゲージド・ラーニングの可能性」(講師 シェフィールド大学教育担当副学長 Brendan Stone 教授)
- ② 教育学研究科国際シンポジウム：2018年11月17日「東アジアにおける大学教育の革新」

(6) その他

- ① AEL(Asia Education Leader)コースの実施と運営に関して、南紅玉助教がサポートに携わった。
- ② 大学ツアー・被災地ツアー
教育学研究科震災子ども支援室の協力を得て、国際シンポジウム参加シンポジストを対象に、大学ツアー（川内キャンパス、東北大学中央図書館、青葉山キャンパス、青葉城址、片平魯迅記念館）および被災地ツアー（講話：「東日本大震災と震災子ども支援室」、視察訪問「震災遺構 / 荒浜小学校」）を実施した。